

常設展示室で 江戸東京を知る



CONTENTS

- 企画展 大東京の華 —都市を彩るモダン文化—
- 研究の散歩道 国際博物館会議に参加して

企画展

大東京の華

— 都市を彩るモダン文化 —

8月25日(火)～11月23日(月・祝)

常設展示室内 5F企画展示室

*会期中に展示替えがあります。



ワンピース
松屋/製 昭和10年代
資料番号 94003011

近年、東京の各地で再開発が進み、新たな商業施設や観光スポットが誕生しています。都市の景観が大きく変わりつつありますが、これまでも東京の街はたびたび変貌を遂げてきました。

明治末期から大正にかけて大衆文化が花開き、デパートや劇場、カフェなど、新しい娯楽の場が次々と誕生しま

した。東京駅の開業や丸ノ内ビルディングをはじめとするオフィス街が成立し、近代的な街並みが徐々に形成されつつあるなか、1923年(大正12)に起きた関東大震災は、東京に甚大な被害をもたらしました。しかし大規模な復興事業により新たな建築や公園、道路、橋の建設など都市の整備が進められ、生まれ変わった東京は「大東京」と称されます。

ようなイメージだったのでしょうか。東京のどのような姿が写し取られているのでしょうか。本展覧会では当館所蔵の資料の中から、明治、大正、昭和へと、時代とともに発展する東京の姿を紹介します。

そして、新たな時代の波は都市の景観だけでなく、そこに集う人々の装いやライフスタイルにも大きな変化をもたらしました。特に1930年代は、洋装に身を包み銀座の街を闊歩するモダンガールに象徴されるように、女性たちがより華やかに、モダンな都市生活を謳歌するようになります。当時流行したファッションやアル・デコ様式の調度品など、人々の生活を彩った品々を展示します。

新時代の幕開けに沸いた、かつての東京の姿をおして、東京の未来について考えるきっかけとなれば幸いです。

(学芸員 津田紘子)



大東京十二景の内 五月 夜の銀座(京橋区)
藤森静雄/画 1933年(昭和8) 資料番号 94201325
8月25日(火)～9月27日(日) 展示予定

昭和初期の版画や絵葉書、写真帖のタイトルの中にも、この言葉をいくつも見つけることができます。では、当時の人々にとつての「大東京」とは具体的にどの

企画展
「発掘された日本列島2020」

●開催場所

常設展示室 5F企画展示室

●会期

6月13日(土)～8月3日(月)

※会期が変更となりました。

●会期中の休館日

6月15日(月)、22日(月)、

29日(月)、7月6日(月)、

13日(月)、20日(月)

●展示内容

新発見考古速報

特集1「日本の自然が育んだ多様な地域文化」

特集2「記念物100年—我がまちが誇る史跡・名勝・天然記念物—」

地域展「東京府史蹟」

主催・文化庁、東京都、公益財団法人東京都

歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
東京新聞、全国新聞社事業協議会

協力・全国公立埋蔵文化財センター連絡協議

会・全国埋蔵文化財法人連絡協議会、
公益財団法人元興寺文化財研究所、
共同通信社

後援・全国史跡整備市町村協議会

江戸博コレクションから
「梨子地葵紋散松菱梅花唐草文様
蒔絵女乗物」



梨子地葵紋散松菱梅花唐草文様
蒔絵女乗物
1698年(元禄11)
資料番号 97201654

内部。金屏風に囲まれた小さな御殿のような
贅沢さ。

数人に担がれて静かに進む乗物。とかく
黒塗りの蒔絵で彩られた装飾豊かなものが
ドラマに登場する。このような乗物の所用
者は高位の女性に限られることは、それほ
ど知られていない。

なかでも梨子地の作品はとりわけ高級な
乗物である。外装には蒔絵で唐松・若松・梅
花などを幾何学的に配置し、三葉葵紋およ
び腰に六葉葵紋を散らす。家紋が葵紋だけ
なので徳川一門の女性の婚姻に用いられたこ
とがうかがわれる。また、内装画が源氏物語
の絵画である。このことは徳川家の女乗物に
限定されるという特徴に合致している。これ
ほどの仕様の高さは、將軍家からの輿入れに
由来すると考えられる。現状では五代將軍
徳川綱吉の養女八重姫が所用者として推測
される。

その後、この乗物は再利用されたようで、
1851年(嘉永4)に修理されたことが金
具裏の書かれた墨書からうかがえる。十二代
將軍徳川家慶養女線宮織子が所用者らしい。
工芸品の最高傑作といえるこの作品は、現
代にいたってもその光彩を放っている。

(学芸員 齋藤慎二)



図書室から
お知らせ

図書室の仕事 Vol. 1
レファレンス業務

お客様から質問・調査の依頼を受け
たとき、私たち司書は自分の知識だけ
に頼って回答するものではありません。
情報源をもとに、それが本であれ
ば著者や出版者や発行年、場合によつ
てはどの部分にどう書かれているかま
で、主観を交えず客観的に提示しま
す。これがレファレンスサービスです。

例えば、「徳川八代將軍は誰か?」
「明治元年は西暦で何年か?」といつ
た質問であれば答えはひとつですが、
「両は現在の何円か?」といった質問
の場合、一筋縄ではいきません。そつ
い質問に質問者と一緒を考えて回答を
導き出すのがレファレンス業務であ
り、私たちの仕事の醍醐味のひとつで
す。時間はかかりますが、同じ愉しみ
をぜひ味わっていただきたいと思つて
います。

夏休み! ことも歴史学習相談
7月18日(土)〜8月31日(月) 7階図書室
テーマをみつめて、図書室でしらべてみよ
う! ご利用は無料です。

国際博物館会議に参加して

専門調査員

木村早霧・文

当館では、特別展や「日中韓博物館国際シンポジウム」の開催など、海外の博物館と交流事業を実施し、相手先の学芸員・研究員と対話を深めている。当館の交流事業の一環として、昨年9月になるが、日本で初めて開催された国際博物館会議（ICOM）での活動について改めて報告したい。

ICOMは博物館の発展を目的に1946年に設立された国際的な非政府組織の一つで、その下に専門分野ごとの国際委員会が32ある。3年に一度、全ての委員会が一堂に会する大会が開催され、25回目を数えた京都大会には、過去最高の4590人もの参加者が世界中から集まった。

当館は、都市にある博物館の役割や可能性などについて、情報の共有や議論を行う「都市博物館のコレクション・活動国際委員会（CAMOC）」の会員である。京都では、「文化をつなぐ都市博物館—過去、現在そして未来へ—」というテーマで委員会が開かれ、9月3日に行われたセッション「都市博物館と歴史的建築物博物館—博物館定義の再考」を当館は

CAMOCと共催し、館長の藤森照信が開会挨拶を、副館長の小林淳二が「グローバルゼーションと都市博物館の役割」と題した発表を行った。副館長の発表では、北京首都博物館、ソウル歴史博物館との交流展の紹介を行ういつ、博物館には、異文化の受容とその過程を資料の収集や展示、教育普及活動などを通して、市民に開示していくという重要な使命があるのではないかという提案が行われた。これには多くの聴講者から賛同が得られ、国籍や博物館の大小の垣根を越えた活発な質疑応答が交わされた。

京都での会議終了後には、視察先の一つとして、9月8日、当館に各国の参加者20名が訪れ、常設展示の見学と当館職員との意見交換を行った。遠方ではブラジルやコスタリカなど、展覧会交流でもなかなか会うことがない海外の専門家と直に対話できたことは、またとない機会となった。誰もが常設展示の広さと収蔵品の豊富さに驚嘆し、京都での発表への理解が深まったのではないかと思う。

今回の京都大会には共催という立場で参加したが、さまざまな国の参

加者の発表を聞き、意見を交換し、当館の活動を紹介する大変貴重な機会となった。今後も、積極的に委員会に参加するなど、交流を継続していきたい。なお、CAMOCのホームページ（<http://network.icom.museum/camoc/>）では、過去の大会の議事録やニュースレターを閲覧できる（英語）。興味のある方は、ぜひご覧いただきたい。

今、世界中の博物館は、新型コロナウイルスのパンデミックにより、その活動が制限されており、当館もその例外ではない。この困難を乗り越えた後、世界中の人々が安全に心から博物館を楽しめる日が再び来ることを願う。



京都でのCAMOC委員会風景

2020年度展覧会ラインナップ 変更のお知らせ

江戸博NEWS 108号でお知らせした「2020年度展覧会ラインナップ」の一部を変更しています。

特別展「大江戸の華」展及び「縄文」展の会期は変更となりました。ご来館の際はご注意ください。詳しくは当館ホームページにてご確認ください。

江戸東京博物館 NEWS vol.109

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表)

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「両国駅（江戸東京博物館前）」A3・A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前（江戸東京博物館前）」下車、徒歩3分

発行日 2020年6月19日（金）

編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

制作・印刷 株式会社D_CODE



表紙解説

銀座煉瓦街
明治10年代後半

近代国家にふさわしい首都として、火災に強い都市を目指した銀座煉瓦街が建設された。計画の中心は、新橋ステーションから築地居留地、官庁を結ぶ銀座地域で、現在のJR新橋駅から有楽町駅の東側にあたる。文明開化を象徴する街としてにぎわったが、関東大震災で姿を消した。

